

研修だより

No.8

学校アンケート 9月最終週～10月1週目

前期をまもなく終えます。忙しい前期、本当にお疲れさまでした！評価もお疲れさまでした！

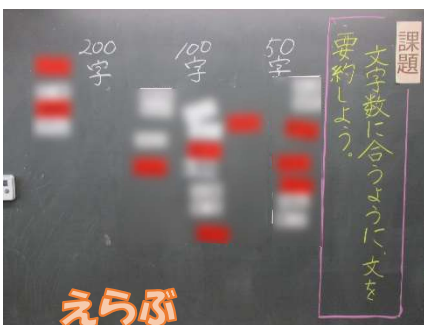
研究部として、アンケート（子ども・教師）のご協力をお願いします。

目的は、子どもたちと先生方の生の声を知ること。そして、とりあえず「やってみた」前期と、公開研・まとめの研究を進めた後期との変容をみとるためです。

研究部クラスルームに form を貼り付けますので、リンクを学級のクラスルームに貼り、アンケートを回答させていただきます。先生方も期日までにご回答ください。ご協力よろしくをお願いします。

「学ぶ」授業、こんなふうにやってみました②♪「えらぶ」

日常実践でいくつか「やってみた」ことを紹介します。気軽に考えましょう♪というだけで、ぜひこうしてください！というわけでもありません。できそうなことから始めてみるきっかけになったらいいなと思います。



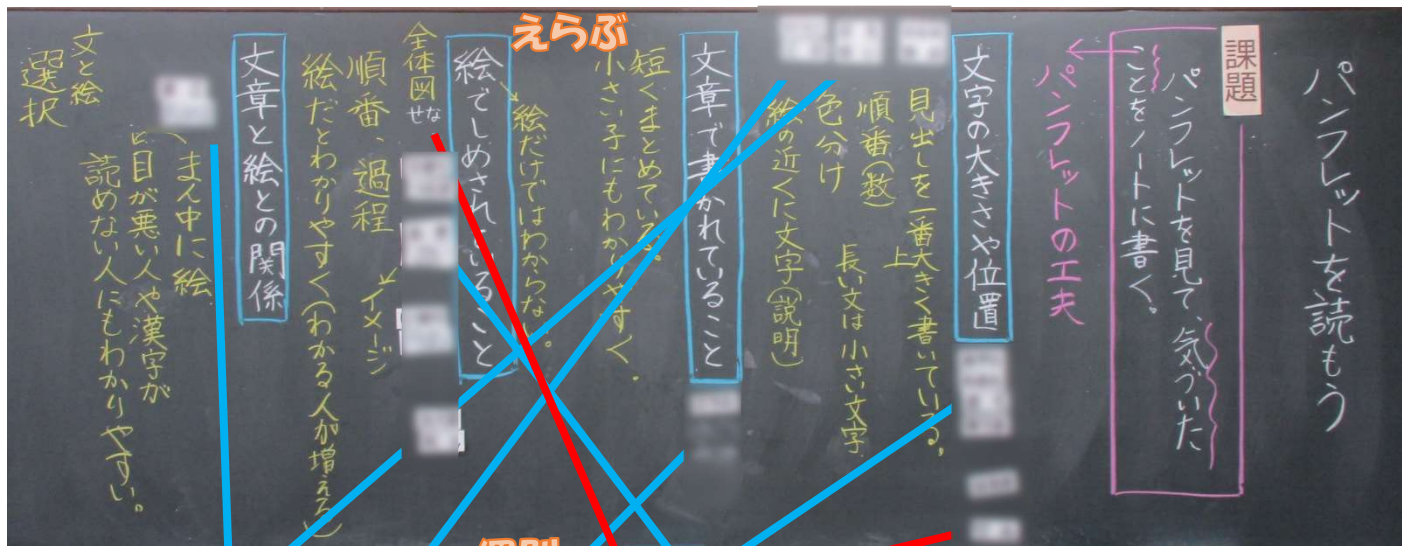
前回同様、自分も慣れるためにやっているのが第一目的なので、あまり内容は吟味されていません…。すみません。

国語、要約の学習です。前期の学習内容の中で、一番指導しきれなかったものは何か、と学年で打ち合わせをし、要約だ！となったので、追加で学習しました。Youtube で子ども向けの昔話の動画を観終えたあと、その内容を要約しました。要約の条件である**文字数を選ばせた**、ただそれだけの授業なのですが、やってみて効果を実感したので紹介します。

☆④自己決定、自己選択の場の保障：文字数を選択させました。自分でも「できそうだな。」と感じる文字数を選び、取り組んでいるため、いつもは作文に苦手意識を持ち手を動かさない子（4名くらい）も、全員書き始めたことに、自己決定の場があることは「子どもたちのやる気」＝「やってみよう」につながるのだと感じました。「3びきのこぶた」「うさぎとかめ」「かさこじぞう」の3つを動画視聴して、要約を書きました。その都度、文字数を選択させました。物語に合わせて文字数を変える子、さっきとは違う文字数にチャレンジする子、何度も同じ文字数でこつを掴もうとする子など、「う～ん、どれにしようかな。」と楽しそうに選んでいました。意欲が継続できたように感じました。

☆トライ&チャレンジ：はじめは、あらすじだけを書き、文字数をオーバーしたり、要旨をまとめきれなかったりした子たちでした。1本目の要約で、1人の子が「(あらすじプラス) 時間がかかってもしっかりとやるとよいことがあることがわかる物語」と発表したのもので、その要約はわかりやすいね、と伝えたところ、2本目の要約では、4分の3の子があらすじだけではなく、要旨を書くことができるようになりました。4分の1の子から、「〇〇さんみたく、～の語ってかっこよきは書けなかったけど、あらすじは書けた。」との話があったので、まだうまく書けなくても明確に目標が見つかってはいるのだなと感じました。「うさぎとかめ」では、ウサギ側の立場やカメ側の立場で得られる教訓が違うこと、でもどちらも要約としては正しいと言えることなどが子どもたちの中で論議されていきました。そして3本目のときには、『あらすじ+要旨』『要旨+あらすじ』で書くと要約しやすく、あらすじの部分で字数調整ができることを自分たちで見つけ出していました！これには驚きました。たった1回ではなく、3回チャンスがあったため、子どもたちが自分のノートを見返す中で、自分の成長や学びを実感できていたように思います

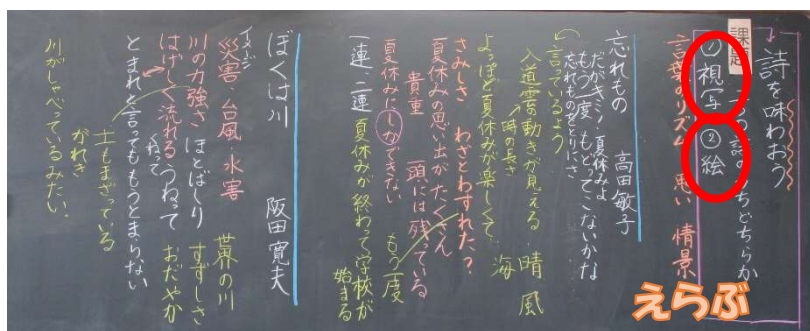
☆やってみて：今年度の研修テーマがなければ、きっと今までの私は、全員に100字の要約を書かせ、次に50字、200字…と教えていたと思います。全員が違うことをして、みとる自信もないし、全員に技能を身に付けさせたいと思っていたからです。しかし、やってみて感じたのは、やることがバラバラだからこそ、大事な部分が共通点として浮き上がってくるということです。先日の文化ホールの講演会のお話でもあったように、プロフェッショナルになるとあとから他がついてくるのだなと思いました。今回の要約でも、200字を書きながらも、自分が100字にするなら「ここを短くすればよい」とか、選択肢を与えたことによる視点が子どもたちに芽生えていました。また、ほかの子の要約の発表を真剣に聞く姿も見られました。



4つの着目点のうち1つを選んでパンフレットの工夫について考えました。また、個人(個別学習)で考えるか友達と考える(協働学習)か選択しました。

着目したことが違ってもパンフレットの工夫として同じことがあげられるなど、子どもたちで共通点を見つけていました。また、一見違う活動をしているので、互いの発表を真剣に聞くことが選択させることのよさだと思いました。

ほかにも、「詩を味わおう」の学習で、①視写②絵を選択して、言葉のリズムや思いや情景を考える学習をしました。描いた絵の根拠が詩の言葉にあたり、視写したからこそ着目できる言葉遣いに気づき合ったりする学びが見られました。



ここまで読んでいただいたら、3本の授業は、私もやっていると、大したことじゃないなと思われたと思います。私もこんな授業を紹介して…とも思っています。しかし、いつも当たり前に行っている学習を、改めて今年度の研究主題やマネジメントに照らし合わせた時に、「学習意欲の向上」「学習意欲の継続」「交流の意義」などの効果が得られていることに気付くのです。理由は、「えらぶ・きめる」に子どもの意思が反映されるからだと思います。自分で決めたことだからがんばれる、主体性ややる気が育まれる1つのきっかけになるでしょう。まずは簡単なことから意図的に「えらぶ」場面「きめる」場面を取り入れてみませんか。公開研に向けて何度も取り組んで自然な形で学習できると、さらに子どもたちに力が付きそうですね。